



光の構造体

広島県大久野島の旧発電所。かつて戦争中に軍事施設としてその大きな空間が活用されていたが、今はもうこの建物は廃墟と化しており、倒壊する危険性があるにも関わらず改修されないまま残されている。新しい世代の島の施設として維持する必要がある。

そこでこの建物内部にガラスブロックでできた構造壁を挿入し、新しい空間として再生する。長手内壁面に露出している鉄骨同士をつなげるようにしてガラスブロックを積み上げて壁面をつくり、レイヤー状に並列させることで、構造的に強度を増すと共に奥行きのある空間性を生み出す。また一部のガラス壁面同士で囲まれた空間の屋根を払い、中庭のような外部空間を挟むことでガラスブロックが光を取り入れる緩衝材となり、柔らかな光を内部に届ける。

ガラスブロックでできた壁は自身の存在感を示しながら、古い建物の空間性を維持するための光の構造体となる。

